

2年2組 数学科学習指導案

1. 単元名

平行線と角

2. 単元のねらい

- (1) 図形の性質を、あることがらを根拠にして説明しようとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 図形の性質を演繹的な推論や類推を用いて、予想したり、考察したりすることができる。(数学的な見方・考え方)
- (3) 多角形の角や平行線と角の性質を利用して、角の大きさを求めたり、図形の性質を説明したりすることができる。(表現・処理)
- (4) 平行線の性質や多角形の角の性質を理解する。(知識・理解)

3. 指導にあたって

(1) 教材について

① 教材観

この単元で取り上げる図形の内容は、小学校でも学習されていることが多く、生徒にとっては、「分かる」という自信が持ちやすい内容である。それが、学習意欲にもつながるが、次第に、「説明」「証明」といったことが増えてくると抵抗が出てくる生徒も多くなる。が、この単元での目標は、推論を積み重ねて思考力をつけていくことにあるので、その点を、スモールステップを踏んで、論証指導にあたりたい。

② 生徒観

数と式領域における基礎的な計算は、得意とする生徒が多いが、長い文章問題を読みとったり、自分で解決法を記述したり・説明したりという力は、経験不足からあまりついていない。2年の図形領域は証明を中心とする内容であり、今までの知識を活用して新たな知識を築き上げていく学習がしやすい。これを、思考力・表現力を付ける機会と捉え、生徒が自分の考えを述べる場面をより多く設けていきたい。

(2) 指導にあたって

① 授業形態の工夫について

少人数習熟度別にクラスを2つのコースに分けて指導する。

<かくじつコース>・・・教師の説明を繰り返し聞いて、確認しながらすすめる。計算が正確にできるようと、基本的な文章題を確実に解けるように学習するコース(24人)

<のびのびコース>・・・練習問題を積み重ねて、間違いなく速く計算できるような力を定着させるようと、文章題をいろいろたくさん解いていくコース(12人)

この章に入る前に、図形に関する事前プリントをして、自己判断の上で、コース選択希望をとった。その後、人数調整をしたが、ほとんどの生徒が、希望通りのコースで授業を受けている。

② 個に応じた指導・支援について

少人数という利点を生かして、机間支援を多くするなど、一人ひとりの理解度を確認しながらすすめる。

③ 評価方法

毎時間の評価は、机間支援の際に見るノート記録、および発問に対する発言・反応で判断する。また、自己評価カードを書かせ、それを点検する際に、生徒が自己をどのように分析して

